

疼痛に対する八味丸の臨床応用

吉祥寺中医クリニック(東京都) 長瀬 眞彦

腎陽虚に対して用いられる代表的な方剤である八味丸は、古典にも腰痛や下肢の麻痺などに用いるとあり、実際にそのような報告も多くみられる。八味丸が腰痛や下肢痛において、痛みのスケールのスコアを改善した症例を示し、八味丸の疼痛に対する可能性を検討した。

Keywords 八味丸、丸剤、疼痛、腎陽虚

緒言

八味丸は腎陽虚に対して用いられる代表的な方剤である。東洋医学的には腎とは成長・発育・生殖能に関連する機能や水分代謝を維持する機能を司っている臓のことであり、この腎の機能が衰えた病態が腎虚である。さらにそこに寒冷症状を伴ったものが腎陽虚とされる¹⁾。

八味丸の出典は『金匱要略』であり、その中の血痺虚劳病篇の付方に、「虚劳、腰痛、小腹拘急し、小便利せざる者は、八味腎気丸之を主る」と記載されており、また中風歴節病篇には、「崔氏八味丸は、脚気上つて小腹に入り、不仁するを治す」とあるように²⁾、腰痛や下肢の麻痺などに用いられ、実際そのような報告も多くみられる。

尚、『金匱要略』には「八味地黄丸」という名称ではなく、「崔氏八味丸」、「八味腎気丸」、「腎気丸」の3種類の名前で記載されている²⁾。今回、八味丸が疼痛に有効であった症例を提示し、考察と共に八味丸が持つ可能性を探る。

症例1 59歳、女性

【主訴】腰痛

【現病歴】X年8月より上記症状がある。「体を動かす時に生じる腰痛であり、右臀部が一番痛い。布団から起きて立ちあがるまでに数分を要することもある。台所に立ち続けると姿勢が固まったようになり、上下左右の動きがスムーズにいかない。痛くなったのは前日にストレッチをやりすぎたからかもしれない」とのこと。整形外科を受診し筋筋膜性腰痛と診断され鎮痛剤等で加療中であるが改善しないため、当院受診。高血圧で治療も受けている。また、疲れてくると口唇ヘルペスが出やすいとのこと。

【既往歴】36歳、妊娠中毒症。慢性腎炎。

【所見】舌：やや紅。脈：両尺脈が虚。

【経過】初診時の疼痛のVAS(Visual Analogue Scale)

は8/10、冷え(足首、手首、首)のVASは3/10であった。主訴と所見から、腎陽虚と弁証し、ウチダの八味丸Mを60丸/日、分3毎食後内服で開始。疼痛が強いため、短期的に鍼灸治療も併用した。2日後には、疼痛がやや軽減傾向になった。10日後「日に日に症状改善している」。15日後「痛み軽減した」28日後「だいぶ良い」とのことで、28日後の疼痛のVASは1/10、と改善した。しかしながら冷え(足首、手首、首)のVASは3/10と改善は見られなかった。

症例2 77歳、女性

【主訴】左足関節痛

【現病歴】以前から、左足首が立ち上がる時や歩き始めに痛み、歩くと改善する。左足首のX-Pでは、加齢性的変化を指摘されているのみである。腰部脊柱管狭窄症もある。また、非結核性抗酸菌症でリファンピシンなど内服中である。

【既往歴】40歳、関節リウマチ。

【所見】舌、やや紅。脈、両尺脈が虚。

【経過】腎陽虚と弁証し、ウチダの八味丸Mを60丸/日、分3毎食後内服で開始。疼痛が強いため、短期的に鍼灸治療も併用した。初診時の疼痛のVASは9/10、冷え(足)のVASは6/10であった。経時的に症状は軽快したものの、28日後の疼痛のVASは8/10、冷え(足)のVASは5/10とごく軽度の改善であった。

考察

八味丸は、六味丸(出典：小児薬証直訣)に附子、桂枝を加えた処方である。六味丸は、地黄・山茱萸・山薬でそれぞれ腎・肝・脾を補い、沢瀉・牡丹皮・茯苓でそれぞれ腎・肝・脾を瀉し、結果として補腎するという非常にバランスの取れた方剤である³⁾。それに加えられた附子と桂枝は中

薬学ではそれぞれ、温裏祛寒薬・辛温解表薬に分類され、表裏を温める作用が期待されている(図1)。中でも附子は、陽虚の衰弱や風寒湿による痺痛によく使用される⁴⁾(図2)。よって腎陽虚に対して用いられる代表方剤であり、黄帝内经素問 脈要精微論篇 第十七には「腰者腎之府。轉搖不能、腎將憊矣(腰は腎の府であり、腎が疲労すると腰を動かすことが出来なくなる)」とあるため⁵⁾、これを根拠に腰痛を主とする疼痛性疾患に用いられることが多い⁶⁾。実際にいくつかの臨床報告がある。林らは、八味地黄丸の腰部脊柱管狭窄症に対する有効性と安全性を準ランダム化比較試験で行っており、腰椎X線像で脊柱管に狭窄を認め、坐骨神経またはその枝の圧痛・放散痛・神経圧迫に起因する症状が確認できた脊柱管狭窄症患者27名に対して、治療群の19名に八味地黄丸エキス顆粒7.5g/日を、8週間内服させたところ、脊柱管狭窄症の自覚症状の改善に有効であったが、客観的評価法では改善を認めないという結果を得ている⁷⁾。

また嶋田らの研究では、八味地黄丸の証と考えられ、四肢や腰の痛み・脱力感・しびれ・冷えを有する患者を対象にして、八味地黄丸の効果並びにその適応病態の解析を試みており、ウチダの八味丸M、60丸/分3を4週間投与した結果、対象症例に神経難病が比較的多く含まれ、しかも4週間投与という比較的短期間の検討にもかかわらず、全般改善度で軽度改善以上の改善率が55.9%を占めていたと報告されている⁸⁾。林らの報告もそうであるが、漢方治療では自覚症状が改善しても他覚的所見は変化がみられないことが傾向としてあるため、今回VASで八味丸の効果の評価した。疼痛が強く短期的に鍼灸治療を併用した症例ではあるが、4週間後の疼痛VASは症例1、2ともに改善しており、八味丸の効果であったと考えられる。冷えのVAS改善は症例2のみに認められているが、症例1では疼痛は改善傾向にあるため、今回は4週間という比較的短期間で効果をみたが、もう少し内服を継続したら冷えも改善する可能性は否定できない。金匱要略には、八味丸は乾地黄をはじめ八種の生薬を粉末にして蜂蜜を練り込んで丸剤にし、酒で服用するように指示がある²⁾。また、香月牛山の『牛山方考』には、「仲景八味丸料は、腎間の火水がともに虚し、諸々の虚損、消渴、大・小便に異常のある病で虚に属するものを治す妙剤である。湯液としたり、鍊薬としたり、蜜丸とするなど、証にしたがって用いる。丸は酒または白湯で下し、急症には煎湯を用い、緩症(緩やかな症状)には鍊薬にして用いる。薬が胸に泥むものには丸薬を姜湯で服ませる。」などと記載されている⁹⁾。これより、慢性期の症状(疼痛なども)や胃腸が虚弱な者には丸薬がより適

図1 八味丸の構成生薬

構成生薬	働き	
地黄	補腎陰	三補
山茱萸	補肝陰	
山藥	補脾	
沢瀉	瀉腎水	三瀉
牡丹皮	瀉肝火	
茯苓	瀉脾水	
桂枝	通陽	
附子	補腎(温裏)	

図2 附子を使用する病態

- 陽虚の衰弱(下半身の冷感、腰や膝がだるく無気力、冷えて痛む等)。
- 風寒湿による痺痛。
- 寒症による腹痛。
- 陰水(陰水=全身機能の衰弱状態をともなう水腫のこと。慢性腎炎、心不全等)。
- ショック、虚脱。

漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会 より 一部筆者改編

していると言えるのではないだろうか。慢性期の症状に適しているため、急性の症状には効果が弱い場合もあり、そういった場合は短期的に鍼灸治療等も加えるとよく患者の苦痛軽減に繋がる。

よく言われることであるが、八味丸は腎陽虚の症状に用いられるため、高齢者に頻用されるが、高齢者には胃腸虚弱が若年者より多くみられる傾向があるため、八味丸の構成生薬である地黄による胃腸障害には注意が必要である¹⁰⁾。筆者も第3腰椎圧迫骨折及び変形性腰椎症と診断され、腰痛、下肢痛がある83歳の女性に対して腎陽虚と弁証し、八味丸投与を開始したが、5回内服で嘔吐し服薬を中断し、患者に不利益を与えてしまった苦いケースもある。それを防ぐためには、low doseで始めるか、食後内服にする必要がある。

【参考文献】

- 1) 伊藤 隆 ほか: 高齢者医療における腎虚証の意義. 日東医誌 47: 532-538, 1997
- 2) 金子幸夫: 金匱要略解説 たにぐち書店: 123-124, 142, 1996
- 3) 神戸中医学研究会 訳・編: 中医臨床のための方剤学 医歯薬出版株式会社: 245-247, 277-279, 1997
- 4) 神戸中医学研究会 訳・編: 漢薬の臨床応用 医歯薬出版株式会社: 187-194, 2002
- 5) 小曾戸丈夫: 素問 新釈 たにぐち書店: 154-173, 2008
- 6) 入江祥史 編著 田中耕一郎: 漢方処方 定石と次の一手. 中外医学社: 161-168, 2016
- 7) 林 泰史 ほか: 腰部脊柱管狭窄症に対する八味地黄丸の有効性. Geriatric Medicine 32: 585-591, 1994
- 8) 嶋田 豊 ほか: 高齢者の手足腰の痛み・脱力感・しびれ・冷えに対する八味地黄丸の効果. 日東医誌 48: 437-443, 1998
- 9) 大塚敬節、矢数道明 編 香月牛山1 近世漢方医学書集成. 第61巻 名著出版: 273, 1981
- 10) 花輪壽彦: 漢方診療のレッスン. 金原書店: 45-47, 1995